

西鶴賀便り

発行 長野市中心市街地活性化協議会
長野県建築士会
ながの支部
協力 西鶴賀町

感動した秋祭り



9月18日(日)3年ぶりに竹山稲荷神社の秋祭りが行われました。17時にはいよいよ神事でお魂入れされたお神輿は、感染防止対策でリヤカーに祭られて町内へ。三手に分かれて木遣りを届ける若連会にひかれて家々を回りました。

神社前に戻ってきてからの流れは圧巻!! 厳かな小手の行進からはじまり、木遣りの夏目さん宅があるマンション前で熱のこもった木遣りが披露されたあと、前若連会長(木頭)の佐藤さんが担がれたお神輿がひと暴れ。最後は

夏目さんが担れ、暴れに暴れるお神輿が火花の降り注ぐ境内へ突入しました。「あ、い、い、まだまだ!!」「あ、い、い!!」火の粉と土ぼこりが舞う中で響いたかけ声は、見ているこちらの血も沸き立つような力強さ。花火がすべて鎮火すると、神社へあらためて木遣りが奉納され、お祭りは幕を閉じました。圧巻すぎて、もはや感想が言葉にできない秋祭り。木遣りに頭を垂れる人々の姿や、玄関や窓から聞こえること巡行の様子を眺める人の姿、その様子を目を輝かせて見ていたさびっこたちの姿も印象的でした。こうやってお祭りは大切に受け継がれていくんですね。

古着屋 福島くん日記①



2年前の4月、僕は西鶴賀町に住みはじめた。生まれてはじめての一人暮らしが「元お寿司屋さん」という衝撃の幕開け。1年前の1月、この町で古着屋をはじめた。うちの店は、老若男女、いろいろな人が訪れてくれることが誇り。そして今年9月、はじめてお祭りにも参加させていただいた。地域での人付き合いが皆無な東京で生まれ育った自分にとって、新鮮で楽しくて、忘れられない一日になった。振り返ると、おもしろいことばかりの毎日。魅惑的で刺激的な西鶴賀町でのこれからの、楽しみで仕方がない。



初代法被は、灰色地に白の折鶴模様。(毎年、お祭りの日にトヨタ履物店のショーウィンドウに展示されている) 現在の色合いは、戦後、若連がびんずるに参加するタイミングで染付調されたもの。極楽町の法被を参考に、白地(=夜に着ても目立つ)になったらしい。

つばめタクシー滝沢さんの歴史コラム⑥ 文明開化による「あらたな社会」



次号の前に明治の時代背景をおさらいします。政府は西洋列強に追いつくための文明開化に取り組み、電気・ガス・水道が明治中頃、大正時代にかけて整備され、明治21年には鉄道(長野駅)が開通しました。大正15年に開業した長野電鉄による権堂駅の開設は、長野市の中心が大門から権堂へ変わるほどの大きな影響もおよぼしました。日常生活のルールやマナーも達式誹違条例(いしきかいじょうれい)という今で言う「軽犯罪法」が制定され、一定の線引きがなされます。この条例により道端での大小便などが禁止され、取り締まられるようになります。 (人力車の暴走運転を取り締まる警官) 文明開化は、今の仕事や社会(移動や暮らし、人権)の礎であり、今に通じる「多様化と変化(機動力)」を求める時代の起源となりました。 (ロメモ) まちには文明開化の建物、産業発祥地の石碑など、当時をしのぶ物が多数残っています。ぜひ探してみましょー!